

志賀原子力発電所周辺の 環境放射線監視結果及び温排水影響調査結果

石川県、志賀町及び北陸電力株は、発電所周辺の環境放射線監視及び温排水影響調査を実施しています。今回は、平成29年4月～6月の環境放射線監視結果「平成29年度 第1報」及び平成28年度冬季の温排水影響調査結果「平成28年度 第4報(冬季)」の概要をお知らせします。

環境放射線監視結果については、志賀原子力発電所に起因する環境への影響は認められませんでした。温排水影響調査結果については、全体として大きな変化は認められませんでした。

I 環境放射線監視(平成29年4月～6月)

1. 空間放射線

石川県は志賀原子力発電所から30kmの範囲に24局の環境放射線観測局を設置しています。また発電所では7局のモニタリングポストを設置しています。

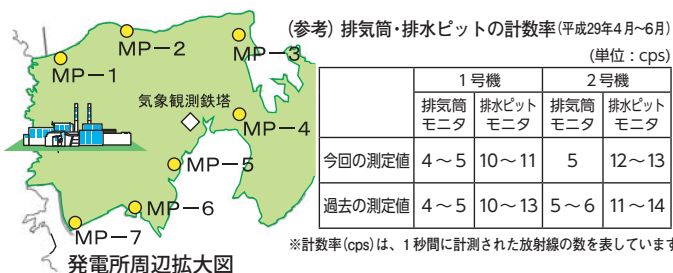
各観測局、モニタリングポストでは、空間の放射線量が1時間あたりどのくらいかを連続して測定しています。

各地点の測定結果は、次のとおりであり、発電所に起因する影響は認められませんでした。

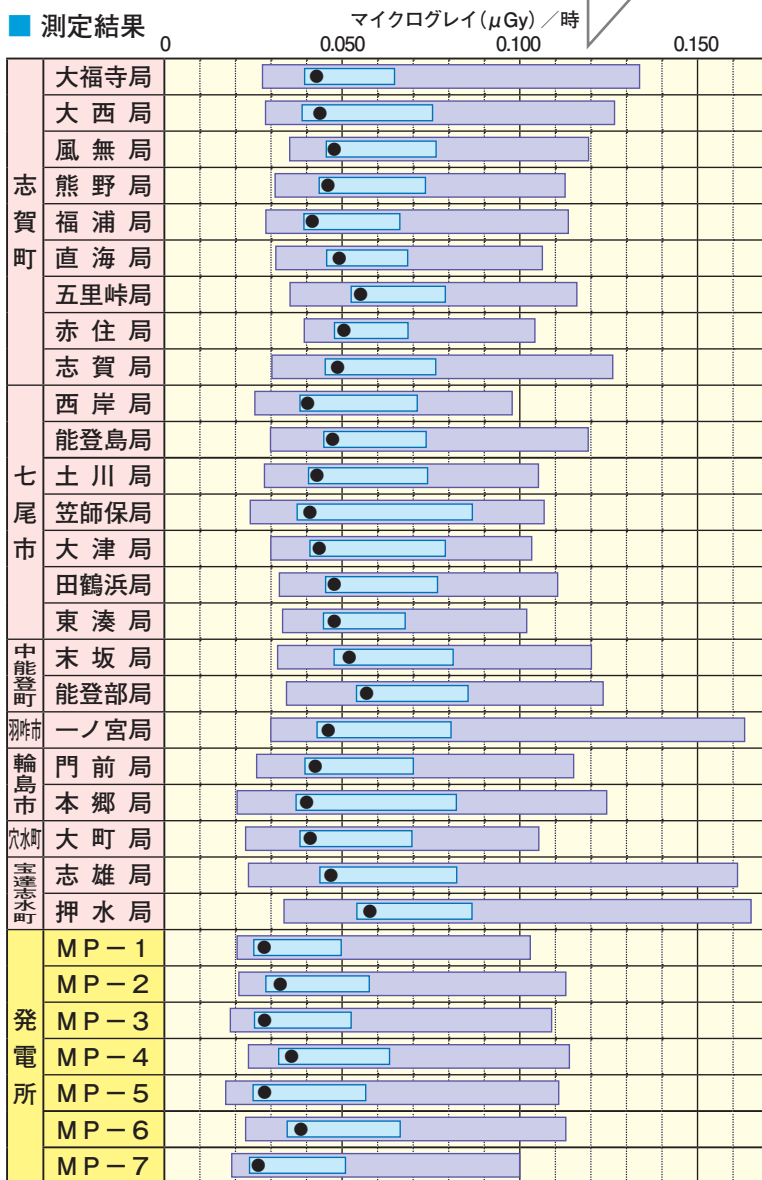
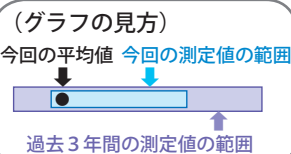
■ 環境放射線観測局(石川県設置)



■ 発電所モニタリングポスト(北陸電力株設置)



環境放射線観測局
(土川局：七尾市(地図赤下線))
空間放射線や風向、風速などを測定しています。



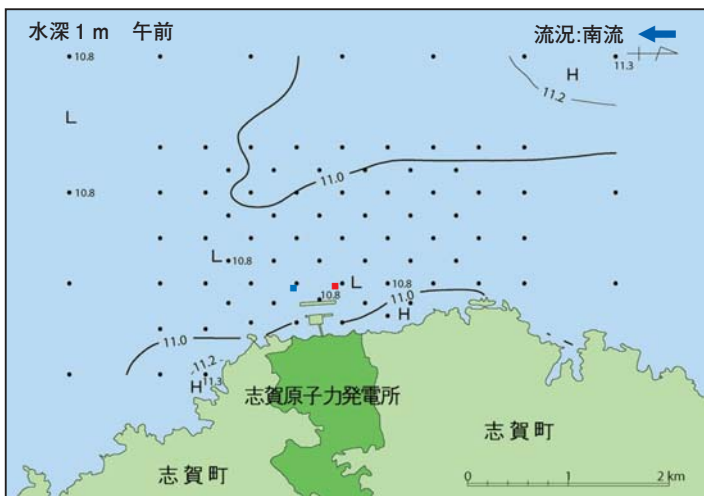
※ 空間放射線の測定値の単位として、グレイ(Gy) / 時が用いられます。マイクロ(μ)は100万分の1を示します。1 マイクログレイ(μGy) / 時=100万分の1グレイ(Gy) / 時

※ 空間放射線の測定値は、通常、宇宙や地面などからの自然放射線によるものであり、0.020～0.100マイクログレイ(μGy) / 時程度です。日常よく見られる変動は、降雨による線量率の上昇であり、0.100～0.200マイクログレイ(μGy) / 時程度となることがあります。

II 温排水影響調査(平成28年度冬季)

1. 水温調査(調査日:平成29年3月25日)

■ 調査結果(水深1mの水温分布) 単位:℃



※ ■は1号機の放水口位置、■は2号機の放水口位置、●は水温調査地点を示す。

〈温排水の状況〉

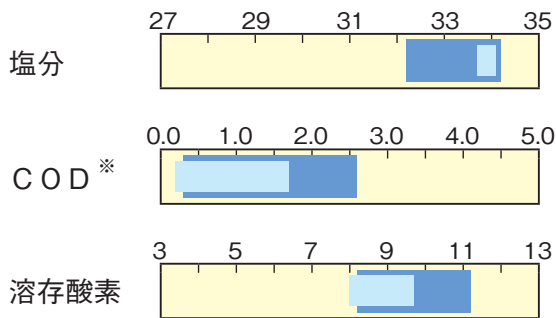
今回は、1号機、2号機とも運転停止中であり、温排水は放水されていませんでした。



▲ サザエ生息調査

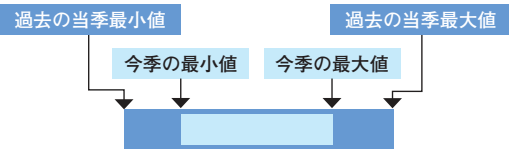
2. 水質調査(採水日:平成29年3月23日、25日)

■ 調査結果(単位:mg/l ただし塩分を除く)

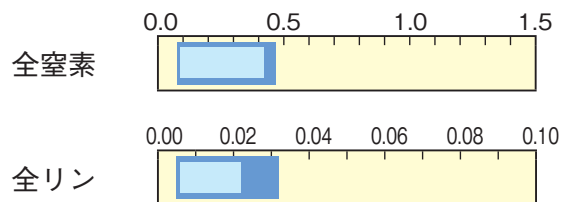


※ COD: 化学的酸素要求量 (Chemical Oxygen Demand)

(グラフの見方)

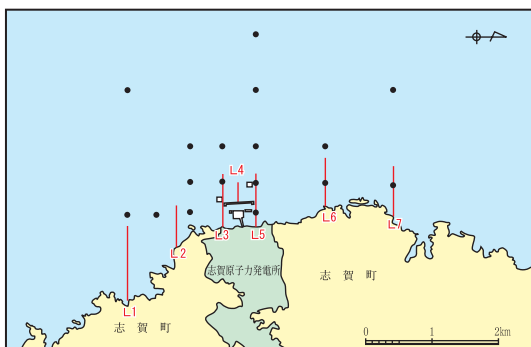


※過去の当季最小値及び最大値は、平成15年度～平成27年度までの調査結果です。



3. サザエ生息調査(平成29年3月18日～21日)

■ 調査地点



●: 水質調査地点 | : サザエ生息調査測線

■ 調査結果

調査測線	水深 (m)	調査面積 (㎡)	調査結果 (平均個体数/25㎡)	過去の調査結果 平成15～27年度 (平均個体数/25㎡)
L 1	3～20	125	3.0	4.8～14.0
L 2	3～20	125	14.4	7.2～17.0
L 3	3～20	125	5.2	4.8～16.8
L 4	15～20	50	3.0	0.5～4.5
L 5	3～20	125	8.0	4.4～19.4
L 6	3～20	125	7.0	3.8～18.2
L 7	3～20	125	11.6	8.0～33.4

水温調査: これまでの冬季調査結果と比較すると、平均水温は概ね範囲にあり、平均塩分は過去の範囲にありました。同一水深層での温度差は0.3～0.9℃、塩分差は0.1～0.4でした。鉛直的には、上下層間の差は、水温は午前はやや大きく、午後はやや小さく、塩分は小さい結果でした。

水質・底質調査: これまでの冬季調査結果と比較すると、水質・底質ともほぼ同程度でした。

海生生物調査: これまでの冬季調査結果と比較すると、卵の出現量は少ない結果でした。その他の項目については、ほぼ同程度でした。